



受賞団体・個人の取組紹介

ボランティア部門



ボランティア部門
《食生活改善推進員》

農林水産大臣賞

楢葉町食生活改善推進員会

(福島県) 活動期間 32年

放射線と食の安全についての車座意見交換会

住民の不安解消と正しい知識の習得を目指して

東日本大震災・原発事故の避難で休会し、平成26年に活動を再開。放射線と食の安全についての車座意見交換会を、地域で活動しているサロンやミニデイサービス（以下、「サロン等」と言う。）の年間予定の中に盛り込んで、各サロン等を巡回して実施しています。放射線と食品についての専門家からの講話と、町の食品放射線検査所で検査した自家栽培の野菜を使った食事を調理し、サロン等参加者に提供しています。



「車座意見交換会」の様子

専門家と住民のリスクコミュニケーション

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターと連携し、「食と放射線」に関する研修を実施しています。参加者から事前に疑問や質問を募り、当日、講師が回答することで、参加者の理解がより深まっています。さらに、参加者に提供する食事に使用した野菜の放射線検査結果も研修の中で説明しています。



「放射線と食の安全」についての講話



メニューはオリジナルの「減塩すいとん」

参加者・会員・近所の住民等が自家栽培した、放射線検査済みの野菜を使った減塩すいとんを提供、安全性の学びにつなげています。町の名物のすいとんを、野菜たっぷりで塩分控えめにした、当会オリジナルのレシピを使っています。



みんなで一緒に食べて学ぶ



この度の受賞、大変光栄に思っております。この結果は、東日本大震災の後、ご支援くださった多くの方々のおかげでもあります。この場をお借りして感謝いたします。受賞を励みに、町の復興にも貢献していく所存です。

楢葉町食生活改善推進員会 会員一同



ボランティア部門
《食生活改善推進員》

消費・安全局長賞

東海村食生活改善推進員連絡協議会

(茨城県) 活動期間 46年

親子の食育教室（東海村ヘルスマイトジュニア事業）

「やりたい」意欲・ 親子の関わりを大切に

地域への食育普及活動に加え、平成28年から村・他団体・民間と連携して小学生親子を対象に東海村食育推進行動計画に基づく3分野「健康づくり」「食文化の継承」「地産地消」の食育教育を実施しています。3分野全てに参加した子供を「ヘルスマイトジュニア」（食育を実践している子供）に認定して認定証と記念品を贈呈しています。



魚を丸ごと1匹使った料理に挑戦

わくわく！体験プログラム

「親子でファーマーズマーケット「にじのなか」見学&夏野菜クッキング体験」（健康づくり・地産地消分野）、「塩ジイの塩づくり講座」「お魚まるごと探検教室」（食文化の継承分野）、「東海村オリジナルSOYJOY（大豆クッキー）作り体験」（地産地消分野）などを企画し、「苦手な野菜が食べられた」「食について考える場となった」等の嬉しい声をいただいています。



教室の様子 真剣に話を聞く子供たち

記念品はおそろいのバンダナ

親子で楽しく学べるよう、東海村ゆるキャラスタンプを集めるスタンプラリー形式の食育教室とし、単発ではなく、繰り返し意欲的に学べるよう認定レベルを設けることにより、子供のやる気アップにつなげています。



おそろいのバンダナで深まる親子の絆



この度の受賞を受け、大変光栄に感じております。子供たちの「できた!」「やりたい!」「美味しい!」等の瞬間と一緒に味わえると私たちも嬉しくなります。これからも楽しく活動してまいります。

東海村食生活改善推進員連絡協議会 一同



ボランティア部門
《食生活改善推進員》

消費・安全局長賞

大阪市港区食生活改善推進員協議会

(大阪府) 活動期間 40年

幼児、小学生に対する食育 ～野菜摂取量の増加を目指して～

子供の頃から習慣づけ

子供に対する野菜摂取の啓発に重点を置き、保健福祉センターの3歳児健診に来場した子供と保護者に対し、野菜摂取の啓発や体験とアンケート調査を実施するとともに、小学生に対し、なにわの伝統野菜を使った料理教室を開催しています。また、協議会として全てのライフステージに対する食生活改善について幅広く活動しています。



3歳児健診での啓発の様子

野菜を自由にさわってみよう!

3歳児健診時には、食材に親しみ、食べたいものを増やすことができるよう、自由にさわられる野菜の展示や飲み物のエネルギー量を砂糖量で表示するなどの啓発を行っており、子供の興味を引き出すとともに保護者が与え方を見直す契機となっています。また、保護者にアンケートを行い、子供の食に関する課題を掘り下げています。



好きな野菜を測ってみよう!

自分で育てて調理してみよう!

小学校低学年児童に対しては、校庭で栽培している伝統野菜の収穫体験と、収穫した野菜を使い、全員が包丁を使用する料理実習を行っています。自分で育てて調理することで、伝統野菜や調理への興味も広がり、野菜嫌いが改善される例もありました。



なにわの伝統野菜を食べよう!
調理実習の様子



思いがけない受賞のお知らせを頂きまして、一同大喜びを致しました。これまで活動へのご理解、ご協力をいただきました地域や行政の方々に感謝申し上げます。今後ともワンチームとして、世代を超え食育を推進してまいります。

港区食生活改善推進員協議会



ボランティア部門
《大学等》

農林水産大臣賞

畿央nutrition egg チーム 〈畿央大学〉

(奈良県) 活動期間 10年

奈良県の健康課題に対し、若い世代を対象とした若い世代自らの情報発信、政策提案、商品開発などを通じた食育活動

同世代に向けた 情報提供・助言

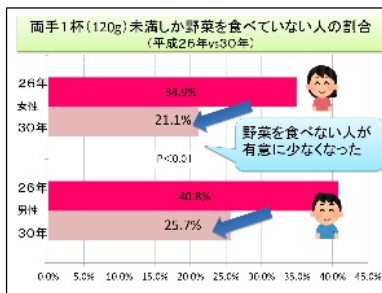
自分たちと同様の若い世代に対して、栄養・食生活改善を中心とした健康づくり支援活動を行うことを目的に、管理栄養士過程修学中の学生で構成された食育ボランティアサークルです。継続した活動が認知され、小中高大学の文化祭や授業、行政機関やスーパー等のイベント等において媒体作成や講座などの啓発活動を行っています。



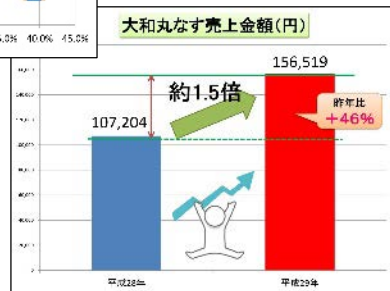
食育SATシステムによるカロリーチェックの様子

政策提案の経験による 企画提案力の醸成

奈良県内の健康課題及び地域特性について情報収集を行い検討し、それらに対する改善策の検討・提案の過程を大学生自身が行っていきます。採択され事業化された政策提案については、大学生自身が県の担当者や関係者等と連絡調整を行うなど主体的に準備を行っており、卒業後に管理栄養士として必要な企画提案力等を身に付けることにつながっています。



地産地消・野菜摂向上の産学官連携の取組と効果



4 大学連携協議会 「ヘルスチーム菜良」

奈良県内4つの栄養系大学に設置されたサークル「ヘルスチーム菜良」4大学連合協議会に所属し、協働した活動も行っています。

小学校での
エコクッキング



地域特産品を用いた商品開発

4大学ヘルスチーム菜良コラボ 大和郡山秋ピザ誕生!



私たちは、大学内外でフードモデルを用いた食生活改善アドバイスや地産地消を目的に、大和野菜を用いたピザや弁当の商品開発等に携わっています。多くの方々に感謝し、今後も奈良県の健康づくりに貢献していきたいです。



畿央nutrition egg チーム
前代表 徳原 有実



ボランティア部門
《大学等》

消費・安全局長賞

北九州市立大学 地域共生教育センター

『食』から学ぼうプロジェクト (福岡県) 活動期間 4年

～若者の食の貧困、食に対する意識の低さを解消するために～

若者の意識改善 を目指して

本プロジェクトは、北九州市立大学地域共生教育センターにおけるプロジェクトの1つです。「若者の食に対する意識を高める」ことを目的として、学部を問わず集まった学生が行っているボランティア活動です。大学生が食育について自主的かつ地域社会とのつながりを大切にしながら学習しています。学習成果は子供たちや同世代の学生に伝えています。主に子供食堂における昼食献立づくりと調理、地域の小学校における食・健康・環境学習支援、お弁当づくり推進を行っています。



小学校における学習支援



手づくりの
粘土教材

ナス



プチトマト



ピーマン

食を通して地域に貢献

子供食堂において、地域の耕作放棄地を活用して栽培された食材を利用し、学生がメニューを考え調理して食事を提供しています。その際、料理に使われている野菜当てゲームを行うなど工夫しながら子供たちの興味を引き出して学びにつなげています。また、地域の小学校において、児童の食生活を把握するため、子供たちと一緒に給食を食べ、食べ物について話し合う機会を作り、活動に活かしています。



調理の様子

子供食堂で
一緒に食事



現状を見直そう 「マイ弁当デー」

学生自身が旬の食材を使ってお弁当を作り、中身を見せ合い、栄養や調理について話し合う「マイ弁当デー」を行い、食について考える機会を設けています。さらに、お弁当の写真をSNSに投稿し、学生はSNS読者からのフィードバックをヒントに改善に役立っています。



話がはずむ！
マイ弁当デー



このような栄えある賞をいただき、大変嬉しく思います。これまで私たちの活動にご協力くださいました皆様へ、心から感謝申し上げます。今後も地域とのつながりを大切に、より一層食育活動に励んで参ります。

『食』から学ぼうプロジェクト 学生一同



ボランティア部門
《大学等》

消費・安全局長賞

東京家政大学 食リンピック実行委員会

(東京都) 活動期間 14年

食育で学び合い・育て合い・食リンピック

子供から高齢者まで 楽しく学べる食育イベント

「食リンピック」は、学生が地域住民を対象に毎年秋に大学で開催する食育イベントであり、この他に「出張食リンピック」として、地域の小学校や食育イベント会場でも実施しています。参加することに意義がある食リンピックは五感を使う体験であり、楽しく食育を学びながら、子供から高齢者までが交流しています。



食の象徴として土鍋に聖火の点火

学生が作り上げる 「食リンピック」

食リンピック実行委員会を立ち上げ、イベントの周知、実施、経費の運営までの全てを学生主体で行っています。毎年オリジナル競技10種類を実施しています。みんなで夢中になり、楽しい笑いの中、異世代交流の場ともなっています。食育遊びに競技性を持たせることで、参加者の食育体験の動機づけが得られ、毎年の継続的な参加につながっています。



箱の中の食材を触覚
だけで当てる
「さわってつかんで」

魚の姿を見て
名前と読み方を学ぶ
「Let'sさかなつり」



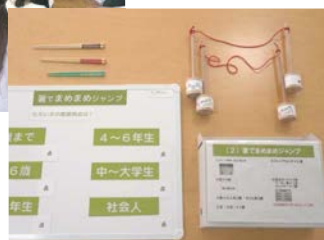
いつでも、どこでも 「出張食リンピック」

小学校に出向いて授業をしたり、イベントで食リンピックブースを運営するなど、大学外においても五感を使う食育遊びを取り入れた活動を行っています。また、平成13年に産学連携により学生が発案したゲームが商品化されました。



小学校での
食育授業

「箸でまめまめジャンプ」
(開発商品の一例)



素晴らしい賞をいただき大変光栄です。私達はこのイベントを通して食の大切さや食への興味を持ってほしいと思い活動しています。これからもより良いものを作るため精進したいと思います。

東京家政大学 食リンピック実行委員会 一同